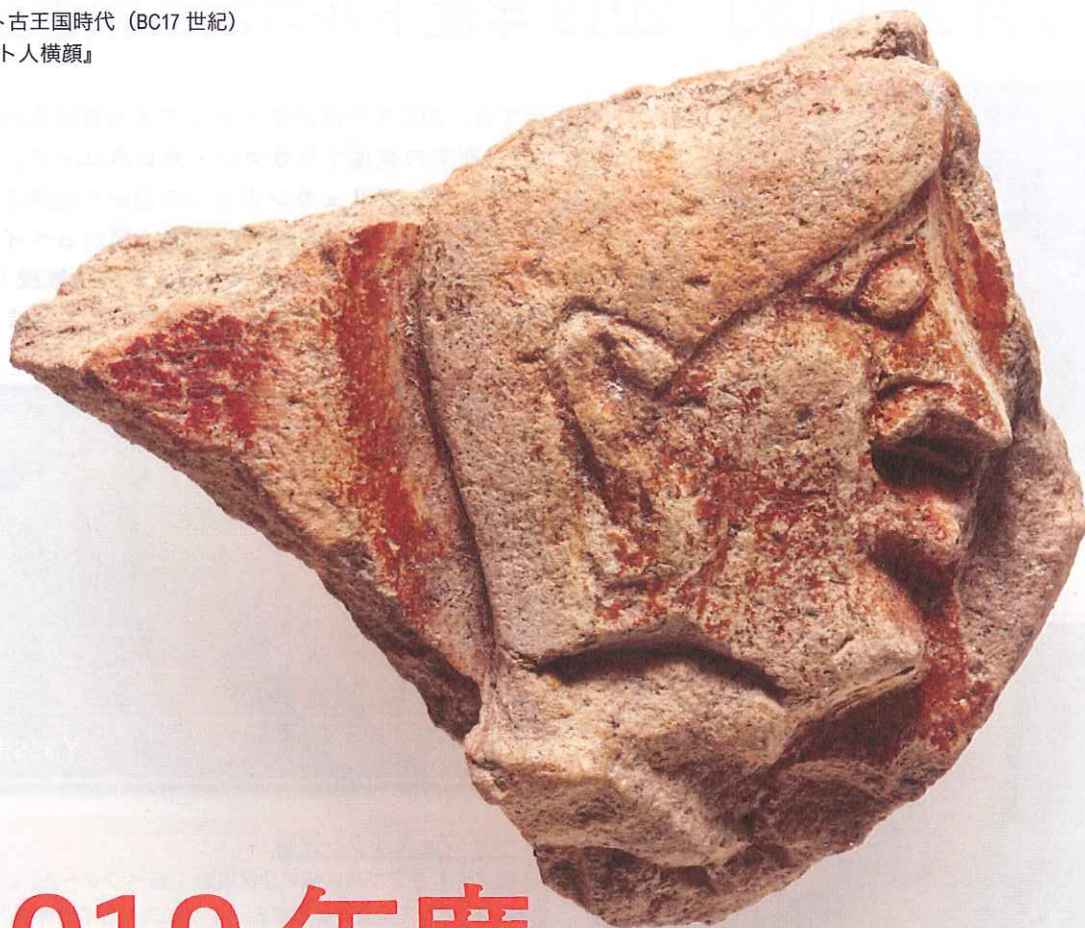


Kaman-Kalehöyük 出土  
ヒッタイト古王国時代 (BC17 世紀)  
『ヒッタイト人横顔』



# 2019 年度 トルコ調査報告会

2020 年 3 月 25 日 (水) 13:00 ~

# 第 30 回 トルコ調査研究会

2020 年 3 月 26 日 (木) 10:30 ~

会 場：学習院創立百周年記念会館 3階 講堂 (両日)

参加費：1000 円 (資料代)

申込み：当研究所 H P にて 2 月下旬より手続き開始

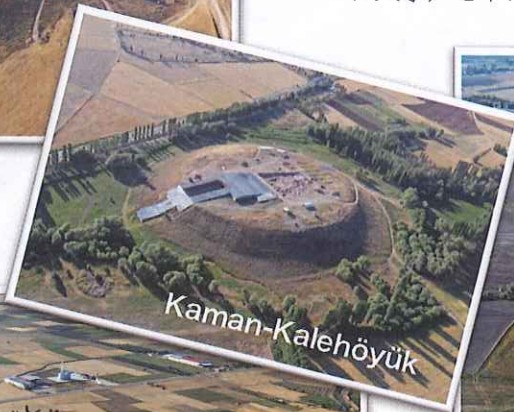
<http://www.jiaa-kaman.org/jp/>

主催 (公財) 中近東文化センター附属アナトリア考古学研究所  
tokyo@jiaa-kaman.org

# 2020年3月25日(水) 2019年度トルコ調査報告会



Büklükale



Kaman-Kalehöyük



Yassihöyük



Beycesultan



報告会では、2019年度のアナトリア考古学研究所の活動および当研究の発掘するカマン・カレホユック、ヤッスホユック、ピュクリュカレの3つの遺跡の成果をご報告するとともに、3遺跡の調査にも深く関わるベイジェスルタン遺跡の発掘隊長 エシュレフ・アバイ教授(エーゲ大学)をトルコよりお招きし、ご講演いただきます。

## ベイジェスルタン遺跡

西アナトリアで最大級の丘状遺跡(35ヘクタール)。エーゲ海に近いデニズリ県に位置する。イギリス考古学研究所 セトン・ロイド教授によって始められた調査(1954~1959年)で、銅石器時代後半(紀元前4500-3000年)から後期青銅器時代(紀元前1600-1200年)末まで途切れなく続く40の文化層が確認された。

2007年にアバイ教授によって発掘が再開されると、紀元前17世紀頃(古ヒッタイト時代)の大火災層が発見され、火災を受けた夥しい数の人骨が出土した。カマン・カレホユック遺跡で検出された紀元前2千年紀の火災層との関連はあるのか?



## 2020年3月26日(木) 第30回トルコ調査研究会

今年度の研究会では、地中探査などの科学的調査、考古学的発掘調査、文献学など多角的な研究成果をもとに、ピュクリュカレ、カマン・カレホユック、ヤッスホユック、それぞれの遺跡の問題についてディスカッションします。

### 発表予定者

熊谷和博、山本孟(日本学術振興会特別研究員)、Mark Weeden(ロンドン大学)、福田勝利(京都大学)、Nurcan KÜÇÜKARSLAN(岡山大学)、津本英利(古代オリエント博物館)、小泉龍人(早稲田大学総合人文科学研究センター)、須藤寛史(岡山市立オリエント美術館)



(公財) 中近東文化センター附属  
アナトリア考古学研究所  
〒181-0015

東京都三鷹市大沢 3-10-31  
TEL: 0422-32-7111 (代表)  
0422-32-7665 (直通)

※電話受付: 月火水金 11:00~17:00  
Email: tokyo@jiaa-kaman.org



- ※ 会場は両日とも、学習院創立百周年記念会館(東京都豊島区目白1-5-1)3階講堂です。
- ※ 報告会・研究会の両日を通しての参加費(資料代として)¥1000(予定)を頂戴いたします。なお、報告会(3/25)終了後、懇親会(会費制)を予定しております。
- ※ 報告会、研究会、懇親会ともに、どなたでもご参加いただけます。
- ※ 詳細は、2020年2月中旬以降、当研究所ホームページ <http://www.jiaa-kaman.org> に掲載予定の「報告会・研究会のお知らせ」をご確認ください。
- ※ 開催日時等は変更になる場合がございます。必ず最新情報をホームページ等でご確認ください。